

2019年度 全国科学館連携協議会 九州ブロック会議 報告書

福岡市科学館
業務管理 野上 理恵

日時	2019年11月1日(金)14:00～18:00 11月2日(土)10:00～13:10 (2日間)
会場	福岡市科学館 (福岡市中央区六本松4-2-1)
参加者	<1日目> 連携協事務局 1名・加盟館 17名(13館) 及び 福岡市科学館職員 <2日目> 加盟館 19名(10館) 【2日間の参加者総数:26名(のべ37名)】
目的	全国科学館連携協議会規約に基づき、その目的に沿った事業の円滑な運営を図ると共に、 本会議加盟館相互の交流を深め、地域の特性を生かした事業に取り組むことにより、 九州の科学普及向上に寄与することを目的とする。
内容	<p><1日目> 11月1日(金)</p> <p>1 開会 14:00～ 幹事館挨拶【福岡市科学館長:伊藤 久徳】(以下、敬称略)</p> <p>2 事務局より(挨拶・報告等) 14:05～【連携協事務局:富田 知宏】 ○九州ブロック会議の開催にあたって ○連携協からの配布資料関連(補足説明) ・ 2020年度 巡回展示物の貸出について(募集) ・ 2019年度 海外科学館視察研修について(募集) ○その他</p> <p>3 会議参加者自己紹介 14:15～ (各1分程度)</p> <p>4 協議 14:35～ (1) 2018年度九州ブロック会議報告及び収支報告等 【熊本博物館 研究員:山口 均】 (2) 協議:事前に各館から議題案に対する回答を頂き、それに基づき意見交換(以下抜粋) ※ 今回は全8議題の内、議題1及び9を中心に討議を行った。 <議題 1> 利用者(未利用者)ニーズの把握や利用増への取り組みについて ※ 各館議題回答をまとめた資料を配布 ※ 協議内容(意見交換) ○アンケートの実施について ・アンケート結果は設置者からの評価対象となっているほか、展示更新や今後の方針の検討材料としている。 ・海外からの来館者にどこから来たかを聞き取り、国外での広告戦略に活かしている。 ・アンケートは回収率が上がらないと検証に繋がる中身にならない。 記念品・抽選でプレゼントが当たるなど特典をつけておこない回収率を上げる取組み。</p>

○ニーズ把握について

- ・無料券の配付と併せてアンケートを実施し、利用理由や感想のほか、未利用者にも調査予定。
- ・シニア向けに草木染め、豆腐づくりなどの人気講座を開催。
- ・食がテーマに入ると集客増加する傾向がある一方、「来館者が喜ぶことだけを提供すれば良いのか」というジレンマもあり、ニーズを掴むことと伝えたいことのバランスが重要。
- ・地域内の他施設の業務も担っている協力先と連携し、他施設での認知度調査を実施。

○その他

- ・地域的にリピーター予備軍が少ない、波がある
- ・全国的に展開するプラネタリウムの番組制作会社等が各地のニーズを掴んでいることも等

<議題 9> 各種プログラム及びイベント等の評価・検証の方法について

※ 各館議題回答をまとめた資料を配布

※ 協議内容(意見交換)

○来館全般について

- ・アンケート調査結果を評価に使うことは多い。満足度だけでなく、いかに利用者の興味が高まったか、新しい価値観を得られたかといった意識変容を含めた定性的な内容を、いかにして定量的にアンケートで収集できるかが重要。
- ・毎年聞くことを変えてしまうと評価ができないので、10年くらい同じ指標・設問で収集し、推移を見ることで客観性を出している。
- ・インターネット調査を活用し、非利用者も含めたサンプルから館の認知度や来ない理由などを収集できると、来館者の出口調査と合わせて全体像を見る上で有効。

○プログラムの評価について

- ・施設を取り巻く環境はさまざまのなか、外部に対してどう評価・検証の内容を伝えるか、客観性を持った評価にしていくかに、いつも頭を悩ませている。
- ・参加者数でニーズ有無の判断のほか、来館者の表情や反応を見ながら雰囲気を読み、自己評価。一方的に伝えるだけでなく、来館者の様子を見ながら内容を一部変えたり試行錯誤して満足度を高めていく。
- ・利用者の様子を担当者が各イベント・プログラムごとに記録。検証するにはアンケートと合わせてまとめ、職員間で共有している。

○その他

- ・対外的な評価に対して指標をうまく作れないかという議論は以前からあり、いろいろな努力をしているが、結局は入館者数や入館料収入で量られてしまうというのが実態。しかし、来ていただく人に良いものを返すという気持ちを持ち続けること、行動そのものが大事であり、期待されている時に期待通りの活躍ができるか、困っている時に役に立てるかの積み重ねから、市民に信頼され、応援される施設になるのではないかな。

等

以下、<議題 2～8>については配布した会議資料中の「回答集」にて確認

<議題 2> ボランティア制度の有無、運営状況について

<議題 3> 毎年のように大きな自然災害が発生している中で
科学館としての役割について

<議題 4> 館内でのけがや事故についての対応

<議題 5> 館内でのクレームに対する対応

<議題 6> プログラミング教育の企画や事業の実施方法や成果について

<議題 7> プラネタリウム番組の内容、選定方針について

<議題 8> 企業との事業連携の実施方法や成果について

<その他> 持ち寄った広報物の紹介(希望館より)

(3) 2020年度以降の九州ブロック会議について

※ 担当幹事館の確認及び、細則への追記・削除事項等についての提案

○2020年度は佐世保市少年科学館が幹事を担当。

○新規加盟館の紹介等(2019年度以降、1館追加)

・ 梅園の里 天球館

○細則中の『幹事館順番表』の修正案について(承認)

(4) 写真撮影

5 館内見学 16:00～ 基本展示室観覧ほか館内見学

6 プラネタリウム鑑賞 17:15～ 【福岡市科学館ドームシアター 投映担当:丹野 佳代子】

(1) 当日の星空解説

(2) 一般番組『星の旅～世界編～』視聴

※ 情報交換会を1日目の18:30～21:00で行った(参加者22名)。

場所:竹乃屋 六本松店(福岡市中央区六本松4丁目2-6)

<2日目> 11月2日(土)

1 集合 10:00～10:15

研修会スケジュール、要旨説明

2 サイエンスショー見学

10:30～11:00

【宮崎科学技術館スペシャルサイエンスショー「チャレンジtheロケット」】

演示者:宮崎科学技術館 主任主事 重久 佳穂・主事 永井 麻貴

ロケットをテーマとした実験ショー

11:30～12:00

【福岡市科学館スペシャルサイエンスショー「ひえひえクールマン」】

演示者:福岡市科学館 サイエンスコミュニケーター 小林 翔・(同) 林 千恵

液体窒素を使った「超低温の世界」をテーマとした実験ショー

内容 3 意見交換会 12:10～13:00

○サイエンスショー実施のための工夫点や実験例について

・宮崎科学技術館の方は初めての環境で、会議参加者という専門のスタッフも多数見ている中、かなり緊張されたことと思うが、そのような様子もなく、随分練習されたの

ではないか。

- ・二館ともストーリー性を持たせ、実験に進むまでの間も子どもたちの心を引き付けられるような話や掛け合いに工夫があった。
- ・会場を活かした大きな実験ができるものにしたく、テーマを工夫した。超低温は日常的に親しみが無いので、身近に理解しやすい温度の話や実験、各地の最低気温の話を導入として取り入れ、徐々に普段体験したことのない超低温へと繋げた。
- ・15分程度で完結させて、続きはサブ教材で補完していくものを準備しておき、次の機会に体験できるという形式もある。
- ・内容については演示者本人がテーマ、構成含め作成する館、規定のテーマをもとに演示者が作成した後チームや上長と検討して仕上げていく館など様々。
- ・他の場所でも実施可能な汎用性の高いものについて、通常の展示室内での例、ペットボトルロケットをあえて飛ばさずに謎を残して終わるパターンなどの紹介があった。

○サイエンスショーの内容(ねらい)および評価について

- ・研修開始時とショー観覧後で評価軸が変わった。「見た人がどういう土産話を持って帰れるか」という視点が加わった。参加者それぞれの興味に沿って1つでも持ち帰れるものがあるというのはサイエンスショーの特徴の1つと思う。
- ・安全性の確保は最重要。来館者が低年齢化しているなか、小さなお子さん連れの親子もかなり多く、子どもたちが引き込まれ一所懸命に見ようとするほど舞台に近づきすぎたりもしてしまう。予備実験も十分におこなう必要がある。事故が起きてしまうとせっかくの楽しい実験が台無しになってしまうので、安全管理は欠かせないところ
- ・ショーも科学工作もきっかけづくりの面が大きい。学校ではできないことが見られるというのが科学館・博物館の強みだと思う。
- ・指導案や計画どおりに実施できたか、科学的な視点に誤りが無いか、という2点に加え、実施場面での子どもたちの反応に対する対応などは重要。参加した方がまた見たいまた来たいと思えるかどうか、科学に対するきっかけづくりが一番重要だと改めて感じた。
- ・安全性だけは絶対に外せないが、その他は失敗があってもいい。失敗することで反省もするし改善点も探せる。演示者が自らブラッシュアップしている。

○その他

- ・BGM、画像等の著作権について

等

○13:10 終了・解散

【記録写真①】



会議風景①



幹事館 伊藤館長 挨拶



事務局より 報告・連絡



会議風景②



館内案内



記念撮影

【記録写真②】



二日目研修集合時



サイエンスショー会場



サイエンスショーの様子②



サイエンスショーの様子③



サイエンスショーの様子④



サイエンスショーの様子⑤

【記録写真③】



サイエンスショーの様子⑥



サイエンスショーの様子⑦



サイエンスショーの様子⑧



サイエンスショーの様子⑨



サイエンスショーの様子⑩



意見交換